

彦根城を世界遺産に

「城」のあるまちから「世界遺産」のあるまちへ

世界遺産とはなにか

世界遺産は、世界遺産条約にもとづいてユネスコの世界遺産委員会で決定される、世界の誰もが認める固有の価値があると認定された文化財や自然です。

彦根城の世界遺産登録のための条件

価値証明 価値証明ができている。

保存管理 保存管理の制度や体制が整備されている。

地域参画 世界遺産登録の取組に地域が参画している。



価値証明 彦根城の顕著な普遍的価値 (Outstanding Universal Value)

江戸時代の日本の城は、大名の御殿を中心に自分の領地から引き離された重臣たちが屋敷を構えて集まって暮らし、一緒に政治を行うことで、約2世紀半の間、統治拠点としての役割を果たしました。これが、世界のどの時代にも、どの地域にも見られない、江戸時代の日本の文化的な伝統「大名統治システム」です。

全国に約180あった城はこの大名統治システムを機能させるために「集約的な御殿と重臣屋敷等の配置」と「象徴的な城の外観」という共通した構造と姿をもっていました。戦禍や開発を免れ、地域に守られてきた彦根城にはその二つの構造が最もよく残っています。

ココがスゴイ！

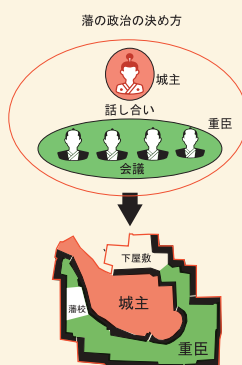
彦根城を見れば、2世紀半の天下泰平の理由が理解できる。

その理由は、この二つ

彦根城の価値を示すもの（特性：Attribute）

集約的な御殿と重臣屋敷等の配置

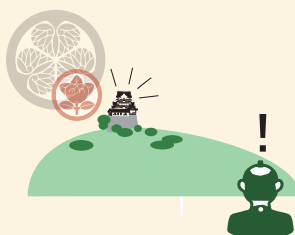
大名の求心力の下に重臣たちが領地から引き離され、中堀より内側の空間に集められました。重臣たちが大名の御殿に集まり、そこで政治が行われました。そして、庭園や学問所によって大名と重臣たちのまとまりが維持されることで政治が安定し、2世紀半の天下泰平が実現しました。



中堀より内側の空間＝地方政府

象徴的な城の外観

城を構成する天守や櫓、門や堀、石垣などが、大名統治システムが機能してた統治拠点の存在を周辺に象徴的に示し、権威を感じさせるとともに領民に安心感を与え、地域の安定が実現しました。



堀、石垣、櫓、天守＝公権力を象徴

資産範囲は、文化財保護法で定める特別史跡として保存管理が行われています。

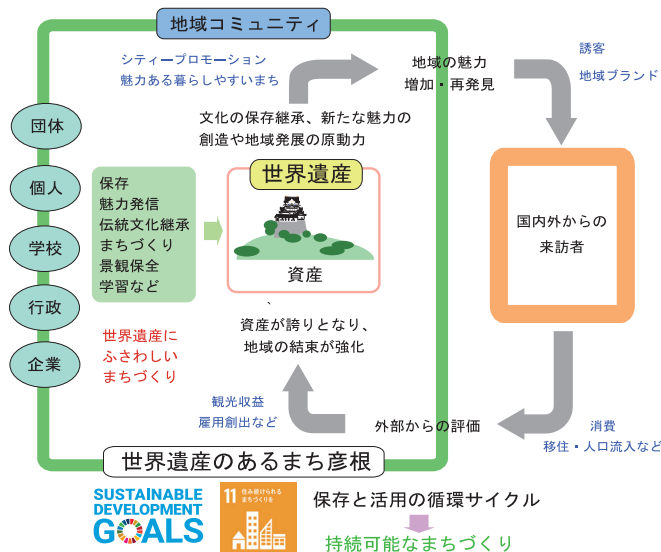
緩衝地帯は、城下町を中心に設定されています。世界遺産としては、琵琶湖や旧内湖の範囲を含めて緩衝地帯とし、資産周辺の環境を保全する必要があります。彦根市では、これまで都市計画法、景観法、屋外広告物法などにより彦根城と調和した歴史的な景観を守り、市民の生活と共存した歴史都市の環境を形成していくための計画や規制のしくみを整備してきました。



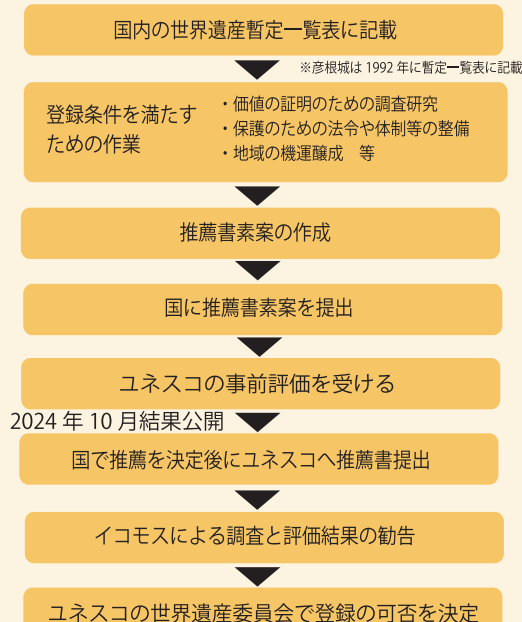
彦根城はこれまで地域のシンボルとして市民の誇りとなってきました。

彦根城が世界遺産に登録されることで、世界遺産を地域のブランディングに活用した新たな観光戦略により来訪者にも住民にも望ましいまちづくりを実現することができます。また、地域経済が活性化することで雇用創出や交流・定住人口の獲得等により人口減少・少子高齢化といった地域課題の解決が期待できます。

このように世界遺産に登録された彦根城を核としたまちづくりに地域コミュニティが参画することが彦根の持続可能な新しいまちづくりに繋がります。



世界遺産までの道のり



もっと知りたい方は

こちらのHPをご覧ください。

彦根城世界遺産登録推進協議会公式サイト
「おして！世界遺産へ彦根城」
<https://www.hikonejo-worldheritage.jp/>



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根市観光文化戦略部文化財課 彦根城世界遺産登録推進室
TEL: 0749 - 26 - 5833 FAX: 0749 - 26 - 5899
E-mail: hikone-wh@ma.city.hikone.shiga.jp
発行: 2025年2月